

ロボカップ2004 世界大会

In Lisbon レポート

松岡 由希子

協力：五十嵐広希(日本SGI株)+ 荒井みちる(ロボカップ国際委員会)

今年のロボカップ世界大会は、サッカー欧州選手権、「EURO2004」が開催中のポルトガルの首都リスボンで、6月29日から7月3日にリーグ戦、4日と5日にシンポジウムが開催された。8回目となる今大会には、37カ国から346チーム、約1600人が参加。会場となった旧万博会場内のリスボン国際博覧会パビリオンでは、ポルトガル時間ということで、連日朝9時から23時まで一般に公開され、長時間にわたって競技が行われた。今年は特にジュニアの進出が目覚しく、参加全チームの半数がジュニアのチーム。大会ロゴのデザインもジュニアを意識したキュートなデザインで、開催国ポルトガルでの科学教育の一環としてのロボカップ推進の意気込みを感じさせた。



「A Small Kick for Robots, A Giant Score for Science」が今年のキャッチフレーズ。もちろんこれはアポロ月着陸時の有名なフレーズをもじったもの。



ロボカップの入口ではしゃぐジュニアチーム。今年のロゴはジュニアを意識した可愛いデザイン。



6月30日、EURO2004準決勝は地元ポルトガル対チェコ戦。ロボカップ会場内も盛り上がる。

ヒューマノイドリーグ

今年で3年目を迎えるヒューマノイドリーグには13チームが参加した。日本からは「Senchans A, B」チームと「Team OSAKA」がエントリー。その他、シンガポールから2チーム4ロボット。新顔として、イランとドイツなどが参入してきた。

残念ながら、昨年優勝の「HITS Dream」はジャパンオープン後に棄権。今年は来るのか？と期待されたロシアチームも不参加だった。

競技は、ジャパンオープンで披露されたものと同じく、歩行、バランス歩行、PK、フリースタイルなどが行われた。

ベスト・ヒューマノイドに贈られる「ルイ・ヴィトン・ヒューマノイド・カップ」

は、注目の「Team OSAKA」が手にした。「Team OSAKA」はすでに本誌上でも紹介されている大阪の産官学共同チーム。最終日には大阪市長もわざわざリスボン会場を来訪。市長自ら「Team OSAKA」のヒューマノイド「VisiON」のPK決勝に、盛んに声援を送った。高度な自律機能を誇る地元チームの優勝は、来年の大阪大会に大きく弾みをつけることだろう。



ヒューマノイドフィールドは、特にジュニアの参加者に大人気。「来年は絶対ヒューマノイドを作る！」と宣言していた子供たちも。



「ルイ・ヴィトン・ヒューマノイド・カップ」栄冠を手にする「Team OSAKA」



スラローム歩行の調整中。全方位カメラ搭載の「VisiON」は確実に課題をこなしていく。